



(17 丹生明神・高野明神坐像(和装))



(18 丹生明神・高野明神坐像(唐装))

17 丹生明神・高野明神坐像(和装)

二軀

木造 丹生明神坐像 像高三二・三 cm

高野明神坐像 像高三九・六 cm

平安時代 田殿丹生神社蔵

18 丹生明神・高野明神坐像(唐装)

二軀

木造 丹生明神坐像 像高三七・四 cm

高野明神坐像 像高四五・三 cm

平安時代 田殿丹生神社蔵

うねうねと険しい高野山麓を下り、有田川が河口に向かい開けてきたころ、鬱蒼とした「夏瀬の森」があらわれる。『丹生大明神告門』に「安諦夏瀬丹生」と記される丹生都比売大神の巡幸地は、現在の有田町丹生地区に比定され、隣接する出地区に田殿丹生神社が鎮座する。川岸から北に森を抜け、境内の中央にある石段が社殿へと続く。一段高い神殿は後方にさらに白山を背負う。山は各所に大きな岩を露わにし、標高一六六mの山頂には白山神社の小さな祠がある。美しい円錐状の山型は、神が宿る神奈備の山というにふさわしい。

田殿丹生神社には、二対の丹生・高野明神像が伝来する。うち一対【17】は大きく朽ちているが、堂々たる尊容は十分にうかがえる。とくに頭部は、頬や眉、目鼻口の抑揚を残しており、やさしくも威厳のある面持ちがみてとれる。肩や膝を強めに形作っており、一世紀頃の作と考えられる。【18】は全体に彩色をよく留め、神の装いも分かる。体は一本から彫り出し、内側に削りをほどこさない。木塊の重厚さがそのまま維持されていて、霊木信仰の強い土地に伝わった神像らしい存在感がある。おだやかな表情などから、一二世紀頃の作とみられる。

夏瀬の森は、かつてはるかに広大であったという。その大部分が度重なる洪水により流失したとされるが、一説にはそれも平安期のこととする。二組の像が現存する理由は不明ながら、祭祀の変遷は、川や森の変化、自然の歴史と軌を一にするのかもしれない。